

「ゲド戦記」(ゲドせんき、Earthsea)は、アーシュラ・k・ル＝グウィンによって英語で書かれ、1968年から2001年にかけて出版されたファンタジー小説のシリーズ名である。原題は「アース・シー」(Earthsea)あるいは「アースシー・サイクル」(Earthsea Cycle)であるが、日本では岩波書店に所属していた装丁家の田村義也によって「ゲド戦記」と名付けられた。「戦記」とあるが、戦争や戦闘が中心の物語ではない。また、ゲドが主人公として行動するのも最初の一作のみである。全米図書賞児童文学部門、ネビュラ賞長編小説部門、ニューベリー賞受賞。日本語版は、清水真砂子の訳により、岩波書店から出版されている。

「影との戦い」のみ、同時代ライブラリー(現在は終刊)から発売されたことがある。

「影との戦い」A Wizard of Earthsea (原語版1968年、日本語版1976年)

「こわれた腕環」The Tombs of Atuan (原語版1971年、日本語版1976年)

「さいはての島へ」The Farthest Shore (原語版1972年、日本語版1977年)

「帰還—ゲド戦記最後の書—」Tehanu, The Last Book of Earthsea (原語版1990年、日本語版1993年)

「アースシーの風」The Other Wind (原語版2001年、日本語版2003年)

『ゲド戦記外伝(ドラゴンフライ)』Tales from Earthsea (原語版2001年、日本語版2004年)

アーシュラ・k・ル・グウィン

1929年、カリフォルニア州バークレー生まれ。2018年1月22日オレゴン州ポートランドの自宅で亡くなる。享年88歳

父は文化人類学者アルフレッド・L・クローバー。母は、「イシー北米最後の野生インディアン」の作者シオドーラ・クローバー。大学で文学を学び、ラドクリフ大学で博士号、コロンビア大学で修士号を取得、1951年、チャールズ・A・ル・グウィンと結婚。家族と共にポートランドに居住。3人の子供をもうける。

SF界のデビューは1961年。66年に「ロカノンの世界」、66年に「闇の手」を発表。女性作家として初めて長編部門でアメリカSF界のヒューゴ賞、ネビュラ賞を同時受賞。以降、ジュブナイル・ファンタジーのジャンルだけでなく文学としても高い評価を得た「ゲド戦記」シリーズ3巻「さいはての島へ」が全米図書賞児童文学部門賞、1974年ヒューゴ／ネビュラ／ローカスの各賞を受賞した。「所有せざる人々」など、次々に発表し、中短編でも多数受賞し、SF界の女王とも呼ばれるにふさわしい作家となる。

2000年代以降もゲド戦記の「アースシーの風」をはじめとして精力的に作品を発表。文化人類学、SF、ジェンダーやフェミニズムSFを語る上で欠かせない作家であり、アメリカ文学の最良の作家として評価されている。